

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳の保持、自立支援、安心安全等を目的とし、透明性のある事業運営に取り組んでいます。地域に根付いた活動に重点をおき、倫理規定でもある内規「ホームふるさと心得」を掲げ、朝礼で確認をしています。	法人の理念やホーム独自の理念を掲げ、利用者の尊厳の保持・自立支援・安全安心などを目的とした透明性のある事業運営に取り組むため、毎朝行われる朝礼で理念に立ち戻り、また、日々の業務に当たっている。入所契約時には、本人や家族にホームの理念を説明しホームの思いを伝えている。サービス提供場面や職員インタビューで理念がケアに反映されていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	永田小学校の方からの「運動会」、「音楽会」のお誘いや、豊田中学校1年生の「福祉体験学習」の受け入れ、また区の「おてんま」、「回覧板」旧ホーム在住の「地域おこし協力隊」との交流も生まれ、より一層地域の方々との結びつきが深まりました。	日常的に戸外に出て地域の方々と挨拶を交わしたりおしゃべりをしている。普段の暮らしの中で野菜や果物のおすそ分けを頂いたり、気軽に近所の人たちが立ち寄りしてくれる関係ができています。地元の小学校・中学校から、行事参加のお誘いや職場体験の受け入れがあり交流を続けている。また、地区の常会に加入し、清掃活動等の行事にも参加し、地域活動や住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のお年寄りが、どんなところか個々でみえたり、集団で見学にみえたりしました。その際、認知症になっても安心して快適に生活できる旨を説明しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、利用者様の状況・行事や今後の予定等を報告、評価や話し合いを行い、サービス向上に役立てています。	定期的開催されている運営推進会議のメンバーは家族、区長、民生委員、市職員などで、事業所の理念・サービス提供の方針・内容などの説明とホームからの報告(入居者状況報告、行事、研修、事故)を行い、委員より意見を頂き、双方向的な話し合いを行っている。また、出された意見はサービスの向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自然災害の避難場所や方法について相談し、指導いただいている。運営推進会議時、市職員より提案事項をいただいています。	市から派遣される介護相談員の来訪(2ヶ月に1回)があり、日々の実践状況を通じてホームの取り組みを見てもらっている。また、市主催の介護施設部会の事例検討会や研修にも参加したり、認定調査の折にはホームでの生活の様子を伝え連携を深めている。さらに、自然災害に備えて、避難場所や避難方法等についても対応していただけるような円滑な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠しない。ミーティングや日々の申し送り時など、身体のみならず、言葉の対応についても拘束にならないように点検しています。	運営規程等に「身体拘束の禁止」を位置づけ、職員は定期的な研修を受講し、身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的苦痛を理解し拘束のないケアを実践している。また、予測されるリスクに関して家族と話し合い、状況に応じた取り組みを行っている。日中の玄関は開錠されており、自由に出入りが可能な状態である。各居室の鍵はなく、出入りも自由に行っている。日々の業務を振り返り、気付かないうちに「言葉でさえぎったり、気持ちを押しさえぎったりしていないか」等を振り返り実践に活かしている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で管理者が、職員に高齢者虐待防止について話、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼の時やミーティングでスタッフ全員に周知してもらい日頃の活動に生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族や利用者に解り易く説明し、不安や疑問があれば理解・納得されるまで十分時間をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は、気軽に意見や要望を言っていただけよう心掛けています。また、「ふるさとだより」発送の際、アンケートも取らせていただき、貴重なご意見をいただいています。	本人、家族等が意見を言い易い関係作りに力を注ぎ、気軽に意見や要望を言っただけよう努力している。玄関に意見箱を設置し、一人ひとりの利用者の様子を知らせる個別のお便りを作成し、また、アンケート欄を設けるなどの工夫もし、家族が意見や思いを伝えられる機会を作り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや活動の中で気が付いた点や、提案等気軽に職員が発言できる環境づくりに心掛けています。	毎年、目標カードを作りそれに沿い自己評価を実施し、管理者との個別面談を行っている。日常的に毎朝、毎昼にミーティングを行い、個々の意見も反映するようしている。更に、年度の初めには食事会や飲み会を計画し、意見を言い易いように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人スタッフ研修、ステップアップ研修、職場外研修など積極的に参加できるようにし、キャリアアップを目指してもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられる機会を増やし、一人一人がスキルアップしていける環境作りに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、市の連絡会に計画作成担当者は参加し、勉強しています。そこで得た情報はミーティングで報告しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン立案時や困った様子がみられた際は、傾聴したり要望を聞くなどして利用者様が笑顔で安心して生活できる様心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想い・困っていること・要望などを聞き、書きとめ、ケアプランに反映させ、良好な関係が築けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の想い、現在の状況を確認し、自立支援や役割、暮らし方等を探り、実現可能なものになるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせた生活ができるよう、できることは行っていただき、家事等は一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちや家族の想いを汲み取り、日頃の様子を写真やビデオに撮り面会の際に見て頂いています。受診の付き添いは家族の方にお申しし共に本人を支えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に來たり、外泊したりして、知人や親戚の人との触れ合いは勿論ですが、近くの畑でも立ち話ができるよう、外に出ることに努めています。	お盆や正月には家族と自宅に戻り、隣近所との関わりを継続している利用者があり、外出の支援を積極的に行っている。知人や友人の来訪があり、繋がりが途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様をよく理解し、個別に話を聴いたり、調整役となり、仲良く楽しく過ごせるように努めています。食堂のテーブルの配置換えも必要に応じて行っています。		

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も状態などを家族に聞いたり、相談にのったりするように心掛けています。当施設で看取った利用者さんの家族とも関係が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の暮らした環境や暮らし方が一人ひとり違うので、施設でも可能な限り意向に添うよう努めています。本人の想いを汲み毎週面会に見えるご家族もいらっしゃいます。	職員は普段の様子や表情から「いつもと違う」と感じた場合には本人本位ということ念頭に検討し直している。日々の会話から利用者の思いや意向を探り全体で共有している。管理者や計画作成担当者は現場から寄せられる「利用者の声」に耳を傾け、本人の思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の聞き取りだけでは不十分なので、日々の会話の内容を家族に確認しながら利用者さんを理解し、馴染みの暮らし方・生活環境に近づけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんとの関わりの中で身体的・精神的状態を把握し、必要な支援を行うと共に記録し、夜勤者に申し送り情報を共有してケアに繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を伺い、介護・看護・医師・訪看等とケアのあり方について相談し定期的にカンファレンスを行っている。状態に応じてプランを見直し、現状に即しているか評価して次に繋げている。	利用者主体の介護計画を作成するため、様々な視点から課題を抽出し、家族、職員、主治医や看護師等と共有し、現状に即した介護計画を作成している。また、朝、昼のミーティング時にアセスメントを含めた話し合いを重ね、実践状況をモニタリングし臨機応変な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の担当者が個人記録にケアの実践や結果、気づきなどを記録し、夜勤者に申し送りをしています。夜間の様子は、当日勤務の職員全員に報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の訪問診療や訪問看護師による健康管理のほか、理髪や歯科医の往診など、必要なニーズに早期に対応しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などには近所の人にもお手伝いをお願いし、利用者さんが安全に楽しく参加できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の定期的往診や週1回の訪問看護師による訪問等により定期的に健康チェックが行われ、また急変時にも対応していただき医療連携がとれています。本人の希望はもちろんの事、ご家族が立ち会う場面もあります。	かかりつけ医については本人や家族の選択を優先している。利用者はホーム協力医による訪問診療を定期的(月2回)に受けることができ、緊急時には往診も受けられ、必要なときに適切な医療が受けられるようになっている。また、訪問看護師も毎週定期的に訪問しており、利用者の健康チェックが行われ、急変時の対応も含め複数の医療機関との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック、排便の有無、尿の性状などや様子でいつもと違うときは、看護師に報告しています。食事量や食べ方、食べる速度、食事の様子も何時もと違う時は報告しています。入浴の際は看護師も一緒に皮膚の状態を観察し、必要な薬を塗布しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院され医師から説明を聞く際は、ご家族と施設職員も一緒に退院後の施設で注意すべきことや今後の治療等について聞いています。食事に関しては病院の栄養士さんにも相談しています。本人には、「早く退院できるように皆待っている」旨を伝えていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の医療選択や看取りについては、施設職員だけでなく、医師、訪問看護師、ご家族が電話もしくは一同に集い、情報を共有し、支援をしています。	契約時には利用者本人や家族に「重度化や終末期に向けたホームの方針」を説明している。状況変化に応じて段階的な話し合いを行う際には家族、医師や訪問看護師等も参加し、意思確認を行いながらチームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変(救急車が到着するまでの対処方法)については、ケースの想定をしながら、話し合いを繰り返しています。事故発生時も同様です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成24年に発生した地震災害により避難を余儀なくされたとき、「市」「消防」「警察」「その他多くの地域住民」の方のご支援をいただきました。その経験を生かし緊急時の対応にあたり避難誘導等について日頃から管理者・防火管理者を中心に協力体制を築いています。	消防署の協力を得て、通報、避難誘導、消火の訓練を定期的に行っている。運営推進会議では、地域の協力体制について話し合い、必要な協力を呼びかけている。また、地区の避難訓練へ参加する中で、具体的にどんな協力をお願いしたら良いかを確認している。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尿失禁が多くなった利用者様のプライドを傷つけない様、紙パンツを交換する際は本人の視点にたつて馴染みの職員が対応しています。	身体拘束研修の一環として尊厳や人権擁護に関わる内容も盛り込み研修を行い、基本的な理解を深めている。利用者との馴染みの関係を築き、さりげないケアを実践し誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に優しい言葉遣いをするように心がけ、何でも話していただけるように努めています。傾聴することを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの意向や気持ちを尊重し、その人のペースで生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服を選択していただいたり、本人が決められない場合は相談に乗っています。身だしなみについても必要な時に声掛け又は支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんのできること、得意なことを生かしながら、安全に作業ができるよう支援しています。職員も一緒に会話し、食事や片づけを行っています。	食事に関する内容を記入した「食事シート」があり食事形態、好きな物、嫌いなもの、トロミや食べてはいけない物等を細かく記録し職員間で共有している。調理の下準備から片付けまでの作業で利用者のできること、得意なことを手伝っていただき、食事にも興味を持っていただけるようにしている。誕生会では利用者の好きなもの、食べやすいケーキなどでお祝いをしたり、また、旬の食材を取り入れることで季節を感じていただけるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や身体の状態に応じて、食事形態や量を変更することもあります。水分摂取量を測定し、脱水予防を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛けや見守りを行い、そうでない方は、毎食後義歯洗浄・口腔ケアを行い、肺炎の予防をしています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんの動きを敏感に察知し、自尊心を傷つけないよう、個々に応じた介助を行っています。おむつを使用されている方でもトイレで排泄していただいています。	排泄表を活用しパターンを把握し定期排泄に繋げ、また、自立に向けて支援をしている。表情や動作等から推測し、さりげなく誘導をしている。トイレでの排泄を基本としているが、ポータブルトイレの活用、オムツ対応等、状態に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様には、牛乳やヨーグルト、食物繊維が多い物を摂取できるよう工夫しています。便秘症の方は医師に相談し、個々に適した下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな利用者様は、シャワー浴をしていただいています。利用者様が入りたくない日は無理せず、翌日に入らせていただいています。	個々の希望や体調面、気分等にも配慮しつつ入浴日や入浴方法を柔軟に切り替え対応している。入浴回数は週2回ほどであるが、一人ひとりの体調や体力等を考慮し支援している。また、入浴時のリスクも考え看護職が勤務している曜日(月・火・水)を主に入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩・リズム体操・歌を歌うなど活動的に過ごし、生活リズムを整えるよう支援しています。室温管理や掛け物調節も行っていきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人別にファイルしており、副作用や用法などが誰が見てもすぐ分かるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはしたいと皆さんがおっしゃいますので利用者さんの性格や能力に合わせ、洗濯たたみや新聞の四つ折り等の家事を一緒に行っています。食事や散歩、行事なども楽しみの一つとなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気やご利用者様の体調もあり、なかなか外出の機会は作れませんが、施設内で季節を感じられるような行事を行いました。また、ご家族にも協力を頂き外出される方もいました。	一人ひとりの希望や身体状況に合わせ、行き先や時間に配慮しつつ短時間でも戸外に出るようにしている。また、家族等の力を借りて本人の希望や習慣に合わせ、お盆の墓参りや美容室等の馴染みの場所へ外出できるように支援している。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族によって、金銭所持の意向が異なるため、本人の気持ちや意向を尊重し、家族と相談し決めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望に応じて、常日頃電話や手紙が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな高台に建てられた施設です。食堂はいつでも気持ち良くゆったりと過ごしていただけるようにテーブルや椅子を配置し、廊下に季節に応じた利用者様の作品を展示しています。天気の良い日はベランダに出て、季節を感じていただき、時にはお茶を飲んだりしています。	ユニット毎にある食堂兼リビングはキッチンと一体的な設えで、開放感があるスペースとなっている。廊下には季節が感じられる作品や思い出の写真を飾り、落ち着いて暮らせるように工夫がされている。冷暖房が完備され、食堂兼リビングからは赤や黄色に色づいた林檎、黄金色に輝く稲穂や山々などが眺望でき、季節を感じながら穏やかに過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで、全てが視界に入りやすくなっています。テーブルや椅子の位置を考慮し、落ち着いてくつろげるように取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族に自宅のベッドの向きやお部屋に置かれていた馴染みのもの、使い慣れたものをお聞きし、本人が居心地よく過ごせるようにしています。中にはお地藏様やこけしを置かれている方もいます。	一人ひとりの居室には長年使い慣れた椅子やテーブル、思い出のある家具や調度品などが持ち込まれ、その人らしい居室となっている。職員は家族と共に、利用者が落ち着いて過ごせるように居室作りをしている。床暖房や冷房が完備され、適度な明るさも確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況が変わった場合は、持参のベッドから介護用のベッドに変えています。自立を促し、かつ安全に生活できるスペースや環境づくりを心掛けています。		